資料2

明治記念大磯邸園の現況

※事務局案であり、今後、議論を深めていくための資料です。

国土交通省

目　次

1. 邸宅名称の整理

2. 現存する邸宅（建造物）の建築年代

3. 現存する明治期の庭園の形跡

4. 明治記念大磯邸園の現況植生

1. 邸宅名称の整理

国土交通省

立憲政治に貢献した人物、現存する建物の建築主、邸宅の使い方（本宅、別宅）から、各邸宅の名称を以下の通り整理する。

旧邸宅名	現存する建造物の状態からの整理
旧伊藤博文邸（滄浪閣）	**旧滄浪閣（伊藤博文邸跡・旧李王家別邸）** 以下資料では、「旧滄浪閣（伊藤邸跡・旧李王家別邸）」と表記
旧西園寺公望邸跡（旧池田成彬邸）	**西園寺公望別邸跡・旧池田成彬邸** 以下資料では、「西園寺別邸跡・旧池田邸」と表記
旧大隈重信邸	**旧大隈重信別邸・旧古河別邸** 以下資料では、「旧大隈別邸・旧古河別邸」と表記
旧陸奥宗光邸	**陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸** 以下資料では、「陸奥別邸跡・旧古河別邸」と表記

目　次

1. 邸宅名称の整理

2. 現存する邸宅（建造物）の建築年代

3. 現存する明治期の庭園の形跡

4. 明治記念大磯邸園の現況植生

2. 現存する邸宅(建造物)の建築年代

国土交通省

資料１の文献調査から、現存する各邸宅の建築年代を以下の通り推察。
今後の検証に必要な課題を整理した。

邸宅名	邸宅の変遷と推察する建築年代
旧滄浪閣 （伊藤邸跡・旧李王家別邸）	**変遷**：・明治29年に伊藤博文が滄浪閣を建築、明治30年に本邸として使用を開始。博文死後は妻梅子が居住。 ・大正10年に李王家へ譲渡、李王家別邸となる。大正12年に関東大震災で倒壊。 ・昭和元年に現存建物の原形となる李垠別邸を再建。 ・第二次世界大戦後GHQによる接収、政治家 楢崎渡を経て昭和26年に西武鉄道株式会社へ売却。 ・昭和29年に大磯プ リンスホテル別館として開業。その間、増改築が行われる。 ・平成に入り、チャペル、バンケット等の増改築を経て、平成19年に宿泊施設営業終了。平成20年に大磯町有形文化財指定。 **→ 昭和元年に李王家が再建した別邸が残る可能性が高い** **課題**：敷地範囲、境界等の変遷の確認 李垠別邸時期、それ以後の増改築範囲の確認、検証
西園寺別邸跡・旧池田邸	**変遷**：・昭和32年に西園寺公望の別邸「隣荘」として建築。 ・大正6年に池田成彬が購入。 ・大正12年に曾禰中條建築事務所へ設計依頼。 ・昭和7年に池田成彬の別邸として現存建物の原形を建築。 ・昭和27年に帝国銀行、昭和29年に三井銀行が所有。その後三井銀行役員寮となる。 **→ 昭和7年に池田成彬が建築した本邸が残っている** **課題**：敷地範囲、境界等の変遷の確認が必要 敷地入口に残る旧運転手宅の歴史的な検証が必要

2. 現存する邸宅（建造物）の建築年代

国土交通省

邸宅名	邸宅の変遷と推察する建築年代
旧大隈別邸・ 旧古河別邸	**変遷**：・明治30年に大隈重信が別邸として取得（元所有者 吉川慎一郎）。 ・大隈により台所や浴室が増築される。 ・明治34年に古河家が購入以後、古河家の別邸として使用される。 ・昭和に入り古河電気工業㈱の迎賓館として使用される。台所や土蔵の減築・改築が行われる。 **→ 明治30年に大隈重信が取得した別邸が残る可能性が高い** **明治期から残る唯一の別邸建築** **課題**：敷地範囲、境界等の変遷の確認 屋根（茅葺）、下屋の改修履歴について検証 かつて存在していた蔵と現在残る蔵との関係性についての検証 管理人の住宅（附属屋）に関する歴史的な検証
陸奥別邸跡・ 旧古河別邸	**変遷**：・明治27年に陸奥宗光が別邸として建築。明治37年に古河家の別邸となる。 ・大正12年に関東大震災で一部大破。 ・大正13年に前身建物は足尾銅山の柏木平へ移築。 ・同年に古河別邸として「原型を残すように改築」（口伝）。 ・昭和に入り、古河電気工業㈱の迎賓館として使用される。 ・第二次世界大戦後、蔵を増築。 **→ 大正13年に古河家が建築した別邸が残る可能性が高い** **課題**：敷地範囲、境界等の変遷の確認が必要 管理人の住宅（附属屋）について歴史的な検証が必要

共通課題１：土地や建物の台帳を調査し、所有者の移り変わりや建物の改修履歴の検証が必要

共通課題２：来年度以降の詳細な建築調査（実測調査、仕様調査、工法調査、痕跡調査等）を実施し、保存状況等の詳細検証が必要

共通課題３：活用整備（インフラ整備含む）で敷地掘削等を行う際は、遺構確認記録の並行実施が望ましい

目　次

1. 邸宅名称の整理

2. 現存する邸宅（建造物）の建築年代

3. 現存する明治期の庭園の形跡

4. 明治記念大磯邸園の現況植生

3. 現存する明治期の庭園の形跡 ①

国土交通省

庭の大部分は宿泊施設の増築と駐車場になっており、形跡は残っていない。

	旧滄浪閣（伊藤邸跡・旧李王家別邸）
形式	**花の庭（園芸植物と梅林）**
庭の構成・修景物	・建物周り:伊藤邸の時代の写真に写るタギョウショウの列植→ **同じ位置にタギョウショウの大木が数本あり**（明治期の東京ではタギョウショウや芝庭が流行していた） ・中庭：建物の中央に中庭が配置させている → 伊藤時代の庭の可能性　※今後の検証が必要 ・庭園：花の庭、梅林の中に建てられた四賢堂 → **形跡はない**ものの、明治期において園芸種で彩られた庭園と四賢堂は本邸園の特徴

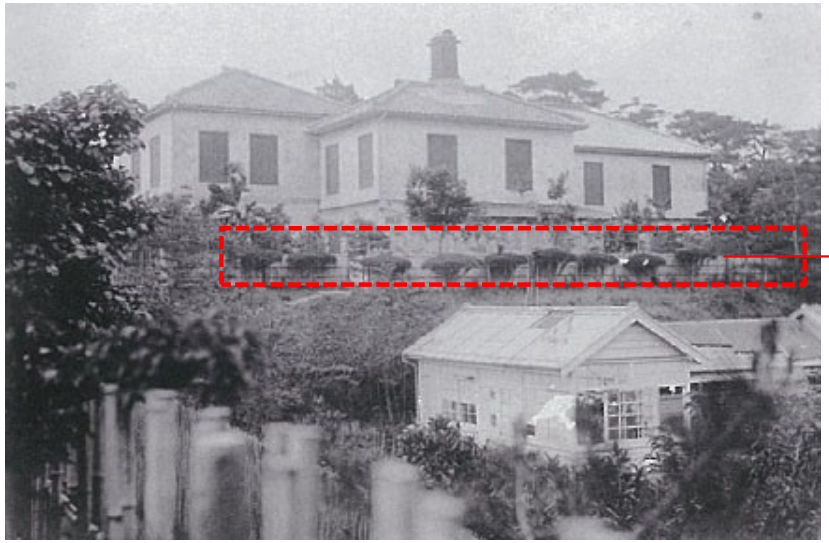
その他　旧滄浪閣（伊藤邸）の庭の記録

*明治21年生の人に滄浪閣の思い出を聞いたとき、「**滄浪閣の池には綺麗な鯉がたくさん泳いでいた。**これは釣れるかもしれないと、仲間と急いで釣竿をつくり、沢山釣ってしまった。…中略…」と話してくれた。*

「滄浪閣の時代：伊藤博文没後100年記念展」（ 2009.10 ）大磯町郷土資料館

*書斎からみると、ユーカリの木がひどく揺れて、…中略…**老松の中に、天空に聳立つユーカリ**はいかにも不調和である。 …中略…この木は伊藤公が植えたか、それ以前からあったかは知らないが、いかにも不調和である。しかしだんだん見慣れてくると、この野放図なユーカリはいかにも風景に一段の力点を与えていることがわかってきた。*

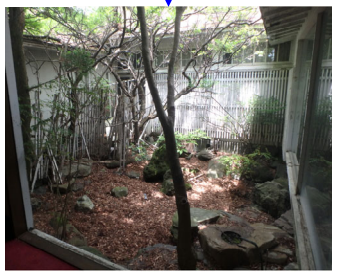
「楢橋渡傳」（1982）楢橋渡伝編集委員会.楢橋渡伝出版会



旧滄浪閣（伊藤邸）西洋館
建物前にタギョウショウの列植が見られる

建物前のタギョウショウ（現在）

図　李裁克大磯別邸平面図
出典:大磯町教育委員会『大磯のすまい』1992

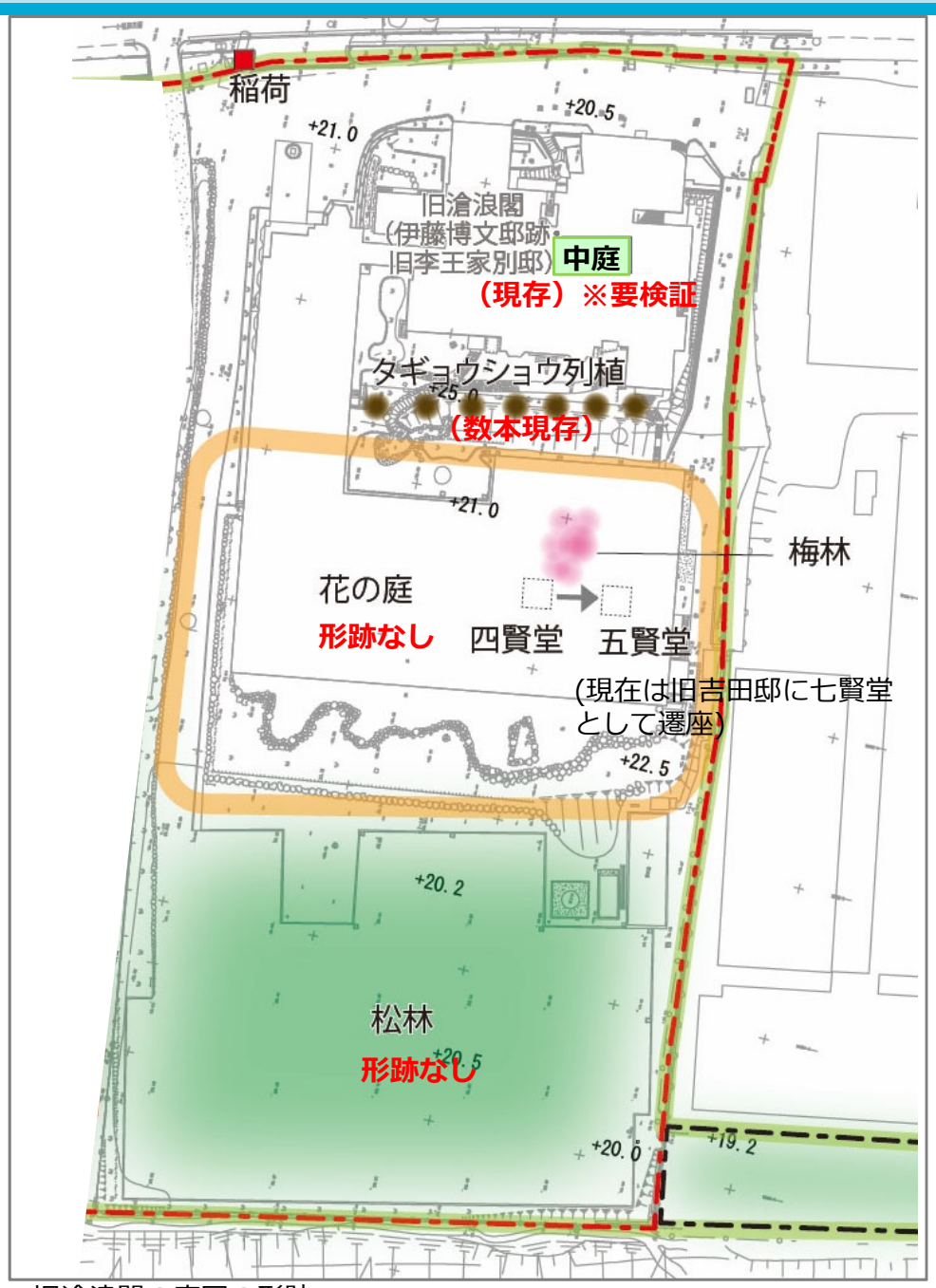


中庭（現在）
現在は落ち葉が堆積している

3. 現存する明治期の庭園の形跡 ①

滄浪閣の庭
左手に日本館、正面に四賢堂と梅林を望む。一段低い園庭に様々な花が咲き乱れる。さらに右手方向には松林が広がり、海辺へと続いている。

滄浪閣前庭にて
ユリやブットレア（明治時代に渡来）、バラなど、多くの花々が植えられている
出典:「滄浪閣の時代：伊藤博文没後100年記念展」（2009.10）大磯町郷土資料館



旧滄浪閣の庭園の形跡

3. 現存する明治期の庭園の形跡 ②

国土交通省

当時の形跡は、ほどんど見られない。建物前の開けた空間が芝地だった形跡として残る。

	西園寺別邸跡・旧池田邸
形式	**洋風庭園**(ツタと芝庭)
庭の構成・修景物	・玄関周り:建築当時の写真では、ヘデラ等のツタが這う外壁とヒマラヤスギの葉が写っている。 → **車寄近くにヒマラヤスギ**がある。 ・庭園（海側）:芝庭、砂山に続く松林 → サンルーム前は開けた空間があるが、**敷地の大部分は樹林**で、マツの大木もある。

西園寺公望別邸「隣荘」の庭の記録

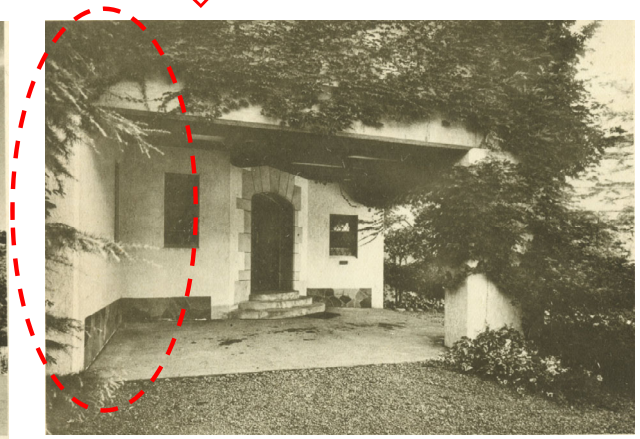
*部屋数こそ多くなかったが、今から考えると、かなり広かった。…中略…　庭は狭く、梅の木が数本と、竹の植込み―竹は業平という種類だったと思う。その**庭の前から、大磯特有の高い砂山まで続いた松林が、**この別荘の生命であり、また、子供たちにとっては、楽しい遊び場である。*

立命館 史資料センター．<懐かしの立命館> 西園寺公望公とその住まい　前編> HP

車寄近くにあるヒマラヤスギ（現在）

同じヒマラヤスギか

庭園側



車寄

西園寺別邸跡・旧池田邸の庭園の形跡

出典:「曽禰達蔵・中條精一郎建築事務所作品集」(1939)中條建築事務所 編.中條建築事務所

3. 現存する明治期の庭園の形跡 ③

国土交通省

現在まで適度に管理されており、他の2邸宅に比べ、作庭時の形跡が多くみられる。

	旧大隈別邸・旧古河別邸	陸奥別邸跡・旧古河別邸
形式	**借景庭園**(近景、中景、遠景) 砂丘地形を活かした建物配置、庭園構成、景観構成（近景の庭園、中景の砂丘上の松林、遠景の相模湾）がされている。 ※借景庭園：明治時代に多く用いられる様になった庭園技法	
	和洋折衷庭園（中庭、芝庭、テラス式庭園）	**日本風庭園**(芝庭、日本庭園)
庭の構成・修景物	・前庭：土留め石組、竹林、梅林、灯籠、水鉢、井筒	
	・玄関周り:砂利敷き、灯籠 ・建物周り:芝庭、灯籠、水鉢、石畳、沓脱石、沓脱石畳 ・庭園:テラス園、バラ園、石垣、自然石階段	・玄関周り:石畳、灯籠 ・建物周り:沓脱、飛石、芝庭、水鉢、石畳 ・庭園:滝、流れ、池、沢飛び、井筒、蹲踞、雪見灯籠、春日灯籠、水鉢、石畳階段、園路

- 旧大隈邸及び陸奥別邸跡の庭園は、現存する庭園の地割、細部意匠から検討すると、大正14年頃、東京都北区の**旧古河庭園の洋風庭園、日本庭園を参考に古河虎之助の指示によって一体的に改修整備されたとも考えられる**。
- 改修が行われているが、明治、大正の変遷を知る貴重な庭園であり、砂丘を活かし、こゆるぎの磯として親しまれた大磯海岸の風土的特色を生かした**近景**（日本庭園、和洋折衷庭園、洋風庭園）、**中景**（砂丘松林）、**遠景**（海洋風景）**の景観構成**は高く評価できる。

大阪芸術大学建築学科環境デザイン分野福原成雄教授 談

雪見灯篭

旧大隈別邸・旧古河別邸の庭

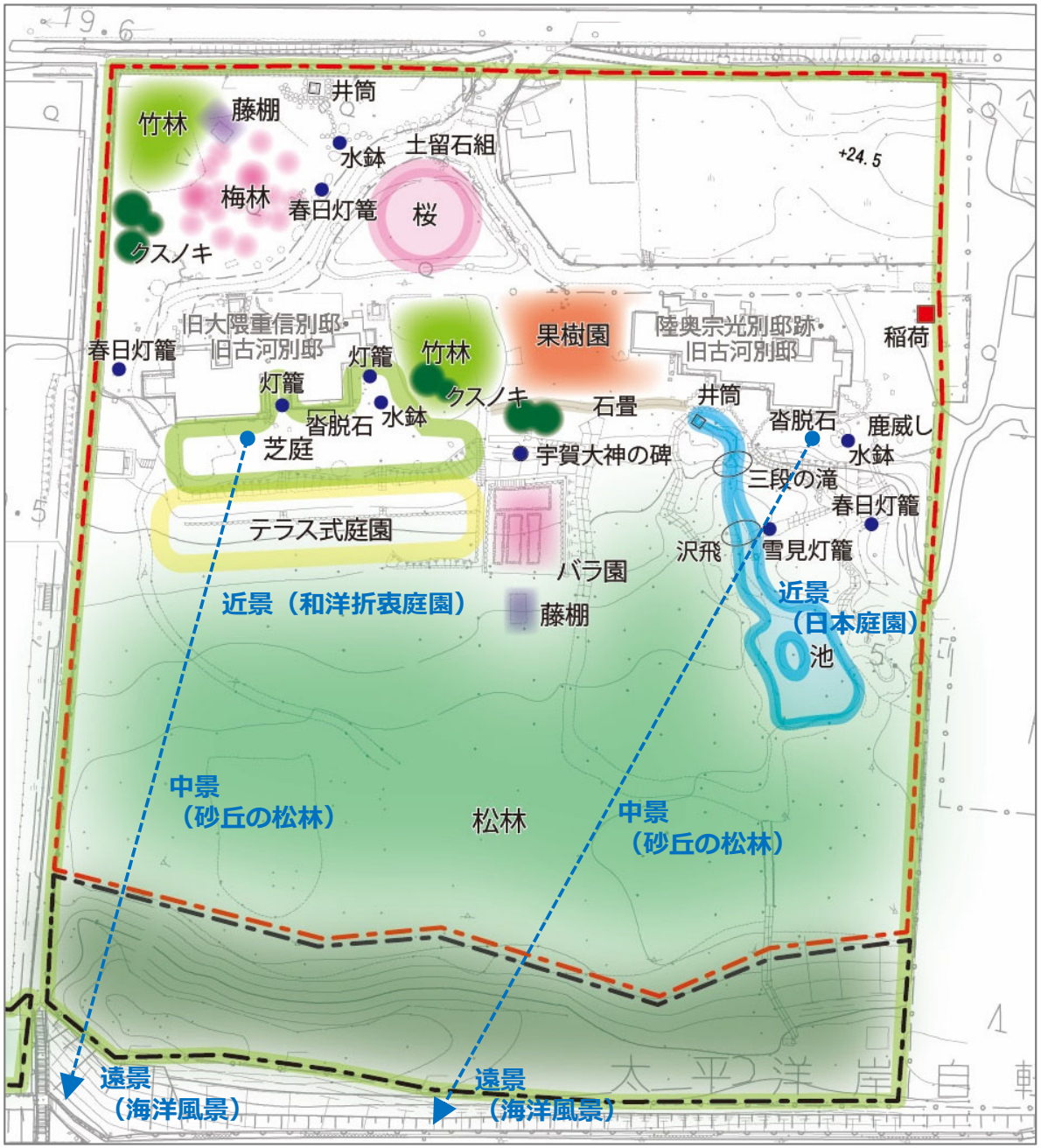
※旧大隈別邸・旧古河別邸及び陸奥別邸跡・旧古河別邸は、日本庭園作庭の専門家である大阪芸術大学福原教授に現地調査に参加いただき、とりまとめた。

3. 現存する明治期の庭園の形跡 ③

●庭園に残る明治期の特徴的な形跡

	旧大隈別邸・旧古河別邸	陸奥別邸跡・旧古河別邸
特徴	**●テラス式庭園** ・建物南側を芝生庭にし、南斜面の石積みの棚に低木を配植する形式は、周囲の**眺望を楽しむために作られたテラス式庭園**を感じさせる。 **●和洋折衷庭園** ・建物周りに庭石、水鉢、灯籠を配置して、日本庭園の要素を残しつつ洋風庭園化されている。広間南側に沓脱を兼ねた石段を設置し、**日本的な手法と洋風庭園的な使われ方が折衷**している。 ツツジが植えられたテラス式庭園 課題：ツツジの生育が悪く、実生の松などが生育しているため、本来の景色が損なわれている。	**●滝石組、流れ、池** ・地元**根府川石と富士山黒ボク石**で構成。 （明治後半から昭和戦前くらいまでよく作られた） ・地元根府川石を沓脱、飛石、畳石、特に滝石組に使用した技法等、地域特性を表す。 （地元滝組技法：根府川石による土留め、平に差し込む手法） ・滝下流部の雪見灯籠前、沢飛からの流れは曲りくねり南に下り、池と見られる窪地に続いている。 滝石組 課題：砂が堆積し全容が判らない。砂を取り除き池の姿を確認し、工法、作庭時期を明らかにする必要がある。

3. 現存する明治期の庭園の形跡 ③



旧大隈別邸・旧古河別邸と陸奥別邸跡・旧古河別邸の庭園の形跡

借景庭園
陸奥別邸跡・旧古河別邸前からの景観

借景庭園
旧大隈別邸・旧古河別邸前からの景観

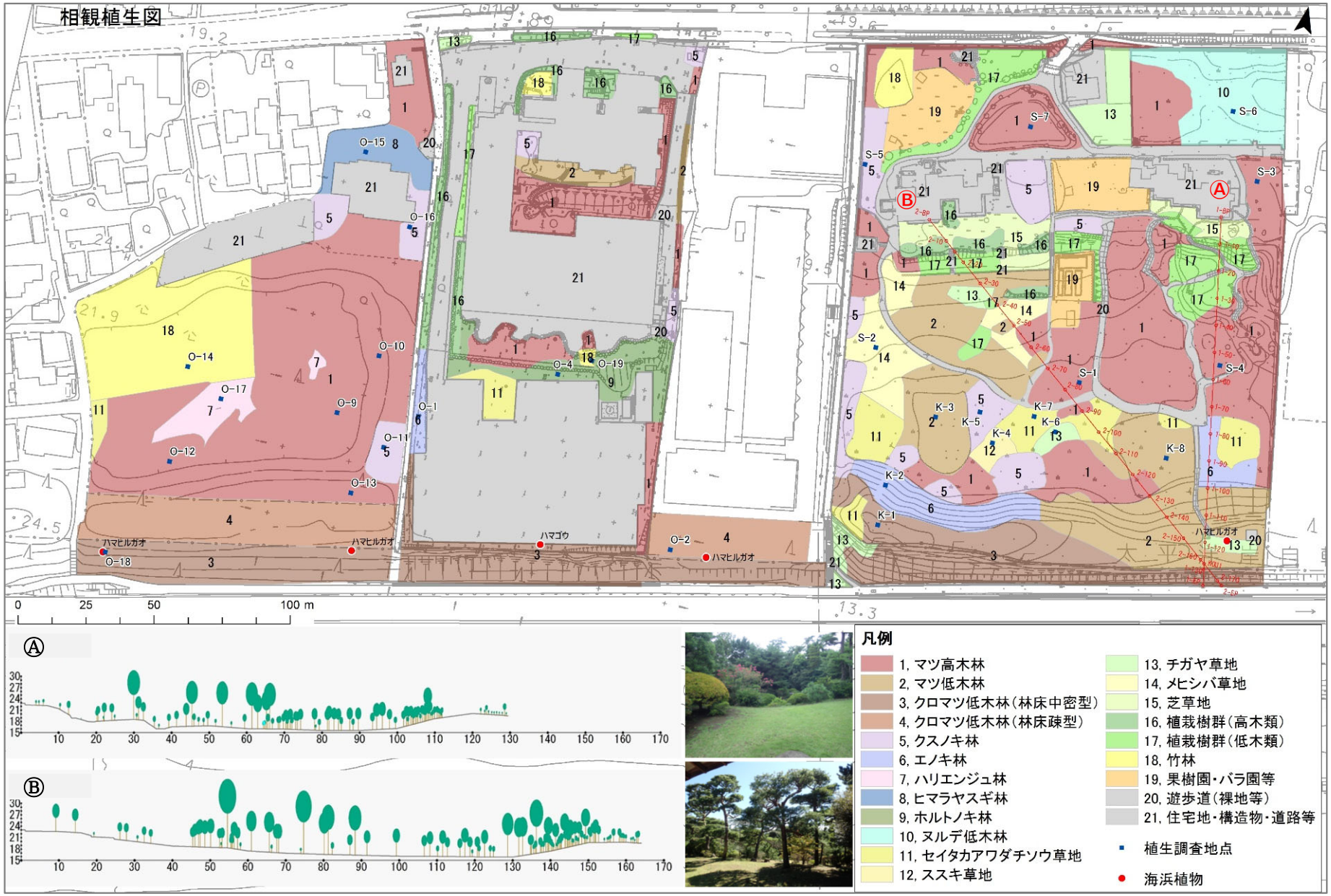
目　次

1. 邸宅名称の整理

2. 現存する邸宅（建造物）の建築年代

3. 現存する明治期の庭園の形跡

4. 明治記念大磯邸園の現況植生

4. 明治記念大磯邸園の現況植生

管理状況に応じて、樹林の混み具合が異なるものの、どの邸宅の庭もマツの高木が散在し、実生由来のマツや広葉樹がみられる。また、一部では外来種等の侵入や植栽木等もみられる。